

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073400588		
法人名	有限会社 エム・ティー商会		
事業所名	グループホーム 虹の郷		
所在地	長野県長野市豊野町豊野797-14		
自己評価作成日	平成21年8月18日	評価結果市町村受理日	平成22年1月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2073400588&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが緑に囲まれた新興住宅地の一角にあり、近くに信越線の電車が走り、日々のお散歩も適度に坂があり、ちょっと足を伸ばしてのドライブも、千曲川沿いの公園・中野のバラ公園・飯山の菜の花公園と四季に恵まれた環境の中で生活しております。スタッフは介護福祉士・社会福祉主事・保育士と多種にわたり色々な立場から考え意見を出し合い、介護に対して真剣に取り組んでおります。入居者の皆様の意見を尊重し、常に安心と安全に心がけ、明るく家庭的な雰囲気笑顔の絶えない虹の郷を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この地区は新興住宅地ですが、この施設は早期に建てられています。施設のある所に新しい住宅が順次建てられてきたことから、地区の歴史とともに成長していくこと、地区と思い出を共有していくという可能性を秘めています(既存の住宅地に建設することとの違いがある)。新興住宅地は住民の年齢構成に特徴があり、今後の地域変化に合わせた「虹の郷」の役割に期待される。また、施設周辺は、適度に起伏のある場所であり、交通量が少ないことなどから散歩ができ、地域住民との日常的な交流にも繋がっている。職員と利用者との関係は良く、楽しい食事の時間や共有スペースでのゆったりとした時間を過ごすことがうかがえた。

サービスの実績に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(1F)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2F)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域の行事に参加したり、日々の生活の中で常に地域の中の一員であることを職員皆で考え実行しております。</p>	<p>地域密着型サービスの理念については、共有スペースに掲示され、職員は常に意識して利用者支援を行えるようにしている。「地域に根を下ろして」「その人らしい安心安全な生活を」等が基本方針のキーワードとしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の草取りに利用者様と参加している。(草取りに参加できる方のみ)また、散歩に出た時など、地域の方に声をかけて頂いたり、話をしている。</p>	<p>地区町会の行事である“草取り”や“町内清掃”等に積極的に参加し、近所付き合いをしています。また、利用者も散歩等に出かけることも多く、日常的に挨拶を交わすことでの関係づくりもできている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2073400588&SCD=320</p>	<p>運営推進会議にて、豊野地区区長様、自治会の方々にも参加して頂き、話を聞いて頂いている。</p>	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、虹の郷にて、運営推進会議を行い、意見交換を行っている。</p>	<p>昨年度は中断されていたが、本年6月より、2ヶ月に1回開催している。利用者や家族、町会長、地域包括などもメンバーとなっているため、地域との関係やサービスの質向上に活かそうとする努力が見られた。</p>	<p>再開して間もないことから、内容については、施設側からの報告が多いことや、運営推進会議自体の役割を理解して頂くこと多い。会議の進行役を明確として、利用者や家族からの意見も意図的に引き出すこと等が求められる。会議内容の充実が望まれる。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き、協力関係に努めている。</p>	<p>サービス内容や対応に迷う事例などについては、市役所担当者とも相談をしている。また、運営推進会議には包括支援センター職員や安心相談員も加わっており、定期的な意見交換も行われている。</p>	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない方(離設が多い方、就寝中、転落がありうる方)に関しては、家族の方に許可を得てペット柵をする場合もある。それ以外は、利用者さんに寄添い拘束のない生活を送れるように支援している。	1Fユニットの自己評価に記載されていることは、数年前のことであり、現在身体拘束は行われていない。拘束しないケアへの取り組みについては、理解し実践していることがうかがえた。	
7		1F 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、マニュアルを作成し、職員全員に回覧してもらっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダーは現在学習の途中である。その後に、職員全員で学習会を行おうと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと読み合わせをし、十分な理解と納得の上、印鑑を頂いております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に、意見要望箱を設置し、利用者様家族や外部から来られた方からの声を聞けるように努めている。	意見箱には3月から現在まで、要望等の投書はないが、投書があった場合は職員会などで取り上げ検討する準備はされてる。また、意見箱以外にも利用者や家族には、要望について問いかけを行い、それをサービス向上に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・フロア会議を行い、年間の行事・業務について意見を出してもらうようにしている。	職員会議は、施設長も参加し現場職員からの意見や提案を聞く機会としても位置づけられている。防災訓練後の設備に対する改善要求等も挙げられ、設備面だけでなく、消防署からの意見も参考に検討されている。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>努めているように見られる。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現在、職員を順に研修に行ってもらっている。研修後に報告書を提出してもらい、他の職員に伝えるように、職員会議等を利用し、報告してもらっている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワーク会議や勉強会に出席し、知り合いの施設を見せていただいて良いところを勉強させていただいております。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者様の表情・言葉等より不安な様子の際は、本人と向かい合い、話を聞き、安心して生活できる様に心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、電話連絡などを通し、日常の生活状況や家族の方と話をすることで、情報の交換を行い、より良い生活をして頂けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居に当たってご自宅へ面接に行かせていただいて、ご本人様がどのように日常生活を過ごされておいでか見せていただき、ご本人様やご家族の思いをよくお聞きしております。</p>		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、馴染みの関係を保ち、親しみを持ち、お互いが協力し合える生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などを通し、日頃の生活の様子・変化などをお話し、家族に安心して頂けるように努めている。その中で、家族の方のお話に、耳を傾け聞かせて頂いている。気になる変化が見られたときには、ご家族様に電話で連絡を取り合っております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、昔からのなじみの場所へ出かけたりして、安心感を与えられるように努めている。又、家の近所のお友達の方も気軽に面会に来ていただいております。	近所の方や入所前の友人等も気軽に立ち寄って頂ける環境になっている。また、本人、家族の要望により入居前から習慣となっていた“日曜日の教会”等個々の希望への支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が支えあい、日常生活の中で好きな事の発表の場を設けるなどして孤立しないように支援しています。		
22		2F サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されておいでの方にはお見舞いに伺ったりご家族様と連絡を取り合い連携を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合った、サポートをし、変化や必要に応じて、カンファレンスを行い検討し対応している。	自分で思いを訴えることができる人はもちろんだが、訴えることができない利用者に対しても、日常生活では、できるだけ寄り添いながら、本人の意向をくみ取る努力をしている。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、入所されてから、家族の方から以前の様子を聞き、また、情報提供書を頂き、職員が目を通し、把握できる様に努めている。他にも利用者様とのコミュニケーションの中からも引き出せるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体力やペースを守り、食事の時間やお茶の時間を決めず、起きてきた際に摂ってもらうようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に応じて、職員、家族間で意見を出し合い、現状に合った介護計画を行っている。	利用者や家族に意向を確認しながらプラン作成している。3ヶ月に1回の計画変更時には、チェックシートを用いた実施状況の確認を行い、チームの共通認識を深めながら、計画に活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、気づきなどがあった場合は、職員間で情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、変化があった場合、その都度、カンファレンスを行い、どのように対応していったらいいかを検討し、サービス提供が出来るようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心相談員の方やボランティアさんに訪問して頂いたり、散歩を通して郵便局、スーパーに行き、地域との馴染みの関係を作っている。近く的美容院の方に施設まで来て頂き理髪して頂いている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する場合は、その希望に添い、今までと変わらない医療・医師との関係を保つようにしている。	かかりつけ医については、利用者や家族の希望に添うように取り組んでいる。また、特定の主治医を希望されない場合は、協力病院等の情報を提供し、利用者家族に選択して頂くようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の方が現在いない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、情報提供書により利用者様の状態変化を伝え、また退院に際しては、病院からの介護サマリーを元に職員全員が情報を共有し、適切な介護が出来るよう努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて、ご家族へのアンケートを行い、重度化、終末期にどのような介護をしたらよいか確認し、また、状態変化の時には再度確認をし、利用者様、ご家族に満足した終末期を向かえられるように支援しています。	入居時にも確認しているが、本年6月に終末期の希望についてアンケートを実施し家族の意向の把握を行っている。	終末期における家族の意向は変化することが予測されるため、アンケートを活用しながら本人家族との意思疎通を深めて行くとともに、施設としての終末期における指針の作成が望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に早めの対応が出来るように連絡網等の体制作りを行い対応している。応急手当の資格取得を徐々に行っている。応急対応は全ての職員が出来るようにしていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の方を招いて避難訓練を行い災害対策に対応できる様に努めている。	消防署と協力して防災訓練を行っている。しかし2階の利用者を移動するのが困難であり、避難経路の確保が早急の課題です。また、非常持出袋には本人確認用のカードが準備され、救出後の対応について検討されている。	早急な災害発生時に対応マニュアルの作成による、緊急時対応の統一化及び町会との関係から災害時の協力体制及び情報交換について話し合いを進めることが求められる。

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者様の生活歴、興味を引き出し、本人を敬う気持ちを持ち声かけ対応をしている。	利用者の思いや大切にしているものの把握に努め尊重している。幻聴等に対しても、幻聴として取り扱うのではなく、本人の気持ちに添いながら、その人の思いに対して支援するように心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重し、出来る限り希望に添うようにし、それに対応出来るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の気分に応じ、食事や生活をサポートできるように、一人ひとりの気持ちを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の理髪や、外出時の身だしなみに気を配り、日常の楽しみや変化のある生活をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や利用者様が得意な料理を献立やおやつに取り入れ、職員が教わりながら作っている。	手伝いのできる利用者は、積極的に食事づくりや片付けに参加していました。また、おやき作りができる利用者には、おやき作りの機会を設けている。また食事内容は、利用者の希望をメニューに取り入れる努力をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、量、バランスを考え、状況に応じた、食事を提供できる様に心がけている。また、自ら水分量の摂取が出来ない方は、職員が気を配り一日に必要な水分量が摂取出来る様にしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアとして、歯磨き・うがい・入れ歯の洗浄を行い、入れ歯に関しては1回/週ポリドントで殺菌洗浄を行うなどして清潔の保持を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方へはその方の排泄パターンを知り、時間を見ての排泄の促し、介助の方は、時間を決めてトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。	日中のケア記録に、排便等の状況が記載されチーム内での共有情報となっている。これを基に排泄の声かけを実施しており、車椅子利用者は時間での介助、自立者はリハビリパンツと平行しながら誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お散歩などに出かけたり、定期的に朝食時にヨーグルトを献立に入れたり、繊維質の多いものの献立やおやつ時に寒天を使うなど、食事の面で工夫をし、便秘予防に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前の日からの声掛け・希望のスタッフでの入浴介助・声掛けのタイミングなど、気候や、体調に応じて、本人の希望に添える様に対応している。	入浴は、本人の希望を重視し、午前中から入浴したい人にも対応できるようにしていると同時に、以前は夜間入浴についても遅番対応で実施していた。また、入浴を拒否しがちな人には、声かけを行い間隔が空かないよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れないときは、一緒に話をしたり、暖かい牛乳をすすめたり、ゆったりとした時間を持っていただき昼間は、適度な休息や昼寝をとってもらい身体に負担がかからないようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を理解して、日頃の体調の変化に注意し、医師と相談しながら行っている。服薬による副作用(よだれ・便秘)などがあつた場合は、医師と連絡を取り合い対応しております。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	謡の得意な方には発表の場を作り、レクなどを通して指導していただいたり、本人の自立を含め、出来る事を一緒にしながら行う。時々、外出・ドライブなどの気分転換をしたりして、楽しみながら生活していただいております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	庭での食事を楽しんだり、季節に応じて、花見などに出かけて、普段は行けない所へ行って、外食なども含め、楽しめる時間を作っている。	利用者の希望により、施設外へ散歩に出かけるている。午前・午後とも希望される場合でも職員が付き添い散歩を実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、その人の生活状況に応じて、スーパーなどに一緒に出かけ買い物をしていただいたり、ご自分で使用出来るようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙、電話を使用して生活に楽しみが出来るようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の分かりやすいように、目印を付けたり、生活に不安を与えないようにしている。季節に合わせた飾り付けをして、変化を楽しめるように工夫している。	季節感を出すように、行事にあわせて飾り付けを行っている。共有空間は、広く明るいことや、畳のスペースも用意され大変居心地がよい様子がうかがえた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ、中庭にイスを置いたりして、話や気分転換が出来るようにしたり、リビングには畳コーナーを設け、利用者様が休めるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との思い出の写真や使い慣れた家具などを身近に置いたりして安心感を与え、生活して頂けるように努めている。	部屋には、家族の写真等が飾られていましたが全体的に質素な様子でした。施設側で持ち物等を制限しているわけではなく、本人の意向に添った部屋作りがされている。利用者は共有スペースで過ごすことが多く、使い分けている様子でした。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所が分かりやすいように目印をつけ対応している。また、デッキ、中庭に出る時に、利用者様の状態に応じて簡易スロープを取り付けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地区の草取りや、地域の中学生がボランティアに来るなど、常に地域の中の一員であることを職員皆で考え実行しております。</p>	<p>地域密着型サービスの理念については、共有スペースに掲示され、職員は常に意識して利用者支援を行えるようにしている。「地域に根を下ろして」「その人らしい安心安全な生活を」等が基本方針のキーワードとしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>草取りの出来る利用者様が一緒に地区の草取りに参加している。また、散歩に出た時など、地域の方に声をかけて頂いたり、話をして</p>	<p>地区町会の行事である“草取り”や“町内清掃”等に積極的に参加し、近所付き合いをしています。また、利用者も散歩等に出かけることも多く、日常的に挨拶を交わすことでの関係づくりもできている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2073400588&SCD=320</p>	<p>運営推進会議にて、豊野地区の方にも話を聞いて頂いている。</p>	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて、虹の郷の日々の生活や行事や変化のあった事を報告し、そこでの意見を日ごろのサービスに活かしている。</p>	<p>昨年度は中断されていたが、本年6月より、2ヶ月に1回開催している。利用者や家族、町会長、地域包括などもメンバーとなっているため、地域との関係やサービスの質向上に活かそうとする努力が見られた。</p>	<p>再開して間もないことから、内容については、施設側からの報告が多いことや、運営推進会議自体の役割を理解して頂くこと多い。会議の進行役を明確として、利用者や家族からの意見も意図的に引き出すこと等が求められる。会議内容の充実が望まれる。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム運営での困ったことなど相談にのって頂いたり、日頃のホームの様子を折に触れ報告しています。</p>	<p>サービス内容や対応に迷う事例などについては、市役所担当者とも相談をしている。また、運営推進会議には包括支援センター職員や安心相談員も加わっており、定期的な意見交換も行われている。</p>	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さんの動きに合わせて、職員が動き、拘束のないケアに取り組んでいる。	1Fユニットの自己評価に記載されていることは、数年前のことであり、現在身体拘束は行われていない。拘束しないケアへの取り組みについては、理解し実践していることがうかがえた。	
7		1F 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、マニュアルを作成し、職員全員に回覧してもらっている。また、定期的にご利用者様個々の検討会議を持つことで、虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは現在、学びの途中であり、職員間で学習の機会を設けようと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと読み合わせをし、十分な理解と納得の上、印鑑を頂いております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱を設置することにより、家族または、外部の方より運営に関する意見等を聞くように努めている。	意見箱には3月から現在まで、要望等の投書はないが、投書があった場合は職員会などで取り上げ検討する準備はされる。また、意見箱以外にも利用者や家族には、要望について問いかけを行い、それをサービス向上に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、代表者、管理者参加の全体会議を設けており、職員の意見を汲み上げられるように努めている。	職員会議は、施設長も参加し現場職員からの意見や提案を聞く機会としても位置づけられている。防災訓練後の設備に対する改善要求等も挙げられ、設備面だけでなく、消防署からの意見も参考に検討されている。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の意見を聞きその意向に添うようにしているように見られる。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現在、職員を順に研修に行ってもらっている。研修後に報告書を提出してもらい、他の職員に伝えるように、職員会議等を利用し、報告してもらっている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワーク会議や勉強会に出席し、知り合いの施設を見せていただいて良いところを勉強させていただいております。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人のしたい事に寄り添い、一日一日の時間を大切に暮らしてもらえるように、安心して家庭的な生活を送ってもらえるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、電話連絡などを通し、日常の生活状況や家族の方と話をすることで、情報の交換を行い、より良い生活をして頂けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居に当たってご自宅へ面接に行かせていただいて、ご本人様がどのように日常生活を過ごされておいでか見せていただき、ご本人様やご家族の思いをよくお聞きしております。</p>		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理をしたり、掃除をしたり利用者様の出来る範囲で、好きな事をして頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	虹の郷便りや面会を通し、共に支えていく関係を築いているが、遠方や仕事上の都合により、なかなか面会に来れない方は電話連絡をし近況報告をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から聞いた、名前や土地を家族の方に聞き、関係を知り支援している。	近所の方や入所前の友人等も気軽に立ち寄って頂ける環境になっている。また、本人、家族の要望により入居前から習慣となっていた“日曜日の教会”等個々の希望への支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の活動で、歌、体操等を利用者様同士が関わりを持っている。また、外出時に、気の合う利用者様同士で、出かけ関わりをもつようにしている。		
22		2F サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されておいでの方にはお見舞いに伺ったりご家族様と連絡を取り合い連携を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方のペースに合わせて、生活が出来るようにし、本人の思いを聞きだしている。	自分で思いを訴えることができる人はもちろんだが、訴えることができない利用者に対しても、日常生活では、できるだけ寄り添いながら、本人の意向をくみ取る努力をしている。	

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、入所されてから、家族の方から以前の様子を聞き、また、情報提供書を頂き、職員が目を通し、把握できる様に努めている。他にも利用者様とのコミュニケーションの中からも引き出せるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体力やペースを守り、食事の時間やお茶の時間を決めず、起きてきた際に摂ってもらうようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に応じて、職員、家族間で意見を出し合い、現状に合った介護計画を行っている。	利用者や家族に意向を確認しながらプラン作成している。3ヶ月に1回の計画変更時には、チェックシートを用いた実施状況の確認を行い、チームの共通認識を深めながら、計画に活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、気づきなどがあった場合は、議題ノートに記入し話し合いを持ち、日々のケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフでカンファレンスを開き、その時のニーズに応じて取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には、公園やスーパー等、外出時に楽しめる場が、多々あり、そこへ行き利用者様の出来る事をして楽しんで頂く。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設側で受診をという家族の方は、施設で利用している、かかりつけ医にて医療を受けている。場合によっては、近くの医療機関に施設側で受診をしている。	かかりつけ医については、利用者や家族の希望に添うように取り組んでいる。また、特定の主治医を希望されない場合は、協力病院等の情報を提供し、利用者家族に選択して頂くようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現在施設にはいない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、情報提供書により利用者様の状態変化を伝え、また退院に際しては、病院からの介護サマリーを元に職員全員が情報を共有し、適切な介護が出来るよう努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて、ご家族へのアンケートを行い、重度化、終末期にどのような介護をしたらよいか確認し、また、状態変化の時には再度確認をし、利用者様、ご家族に満足した終末期を向かえられるように支援しています。	入居時にも確認しているが、本年6月に終末期の希望についてアンケートを実施し家族の意向の把握を行っている。	終末期における家族の意向は変化することが予測されるため、アンケートを活用しながら本人家族との意思疎通を深めて行くとともに、施設としての終末期における指針の作成が望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の講習を受けた職員が、他の職員に習った事を伝え、また、勉強会の中で、話している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練をし、職員だけでなく、利用者様にも参加して頂き、訓練を行っている。	消防署と協力して防災訓練を行っている。しかし2階の利用者を移動するのが困難であり、避難経路の確保が早急の課題です。また、非常持出袋には本人確認用のカードが準備され、救出後の対応について検討されている。	早急な災害発生時に対応マニュアルの作成による、緊急時対応の統一化及び町会との関係から災害時の協力体制及び情報交換について話し合いを進めることが求められる。

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者様の生活歴、興味を引き出し、本人を敬う気持ちを持ち声かけ対応をしている。	利用者の思いや大切にしているものの把握に努め尊重している。幻聴等に対しても、幻聴として取り扱うのではなく、本人の気持ちに添いながら、その人の思いに対して支援するように心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人が希望や思いを表わす方には、自己決定できる様に働きかけている。できない方には、今までの生活歴や行動、言葉に注意し利用者様の思いに添えるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模ケアの中で、出来る限り利用者様のしたいことに添って一日を過ごしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は利用者様本人に選んでもらい、一日が始まる。身だしなみも本人の希望に添い行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態、食事の好みを把握するとともに、調理に関して利用者様が出来ることを一緒にして頂いている。	手伝いのできる利用者は、積極的に食事づくりや片付けに参加していました。また、おやき作りができる利用者には、おやき作りの機会を設けている。また食事内容は、利用者の希望をメニューに取り入れる努力をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、量、バランスを考え、状況に応じた、食事を提供できる様に心がけている。また、自ら水分量の摂取が出来ない方は、職員が気を配り一日に必要な水分量が摂取出来る様にしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアとして、歯磨き・うがい・入れ歯の洗浄を行い、入れ歯に関しては1回/週ポリドントで殺菌洗浄を行うなどして清潔の保持を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声かけを行い、トイレでの排泄を促している。	日中のケア記録に、排便等の状況が記載されチーム内での共有情報となっている。これを基に排泄の声かけを実施しており、車椅子利用者は時間での介助、自立者はリハビリパンツと平行しながら誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの排便の出方を把握し、ヨーグルトや牛乳を定期的に出している。なるべく下剤を使用しないよう努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前の日からの声掛け・希望のスタッフでの入浴介助・声掛けのタイミングなど、気候や体調に応じて、本人の希望に添える様に対応している。また、入りたい時に入れる環境を作っている。	入浴は、本人の希望を重視し、午前中から入浴したい人にも対応できるようにしていると、以前は夜間入浴についても順番対応で実施していた。また、入浴を拒否しがちな人には、声かけを行い間隔が空かないよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては、個々に休める環境作り(畳コーナーの利用や話し相手になる、飲み物を出すなど)に努め、安心して睡眠がとれるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を理解して、日頃の体調の変化に注意し、医師と相談しながら行っている。服薬による副作用(よだれ・便秘)などがあつた場合は、医師と連絡を取り合い対応しています。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	謡の得意な方には発表の場を作り、レクなどを通して指導していただいたり、本人の自立を含め、出来る事を一緒にしながら行う。時々、外出・ドライブなどの気分転換をしたりして、楽しみながら生活していただいております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	庭での食事を楽しんだり、季節に応じて、花見などに出かけて、普段は行けない所へ行って、外食なども含め、楽しめる時間を作っている。	利用者の希望により、施設外へ散歩に出かけるている。午前・午後とも希望される場合でも職員が付き添い散歩を実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりおこずかいを預かり、その人の生活状況に応じて、スーパーなどに一緒に出かけ買い物をしていただいたり、ご自分で使用出来るようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りが出来る方にはもちろんのこと、普段は行わない方にも、年賀状の名前を書いてもらうなど職員とともに手紙を書く機会を持っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために、利用者様と貼り絵を行って掲示したり、その季節に合った飾りつけを行っている。	季節感を出すように、行事にあわせて飾り付けを行っている。共有空間は、広く明るいことや、畳のスペースも用意され大変居心地がよい様子がうかがえた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ、中庭にイスを置いたりして、話や気分転換が出来るようにしたり、リビングには畳コーナーを設け、利用者様が休めるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム「虹の郷」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との思い出の写真や使い慣れた家具などを身近に置いたりして安心感を与え、生活して頂けるように努めている。	部屋には、家族の写真等が飾られていましたが全体的に質素な様子でした。施設側で持ち物等を制限しているわけではなく、本人の意向に添った部屋作りがされている。利用者は共有スペースで過ごすことが多く、使い分けている様子でした。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所が分かりやすいように目印をつけ対応している。また、デッキ、中庭に出る時に、利用者様の状態に応じて簡易スロープを取り付けている。		